

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月1日現在

機関番号：62618

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2010～2011

課題番号：22820085

研究課題名（和文）現代日本語の音韻交替

研究課題名（英文）Morphophonological Alternations in Modern Japanese

研究代表者

バンス ティモシー (VANCE TIMOTHY)

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・理論・構造研究系・教授

研究者番号：60581387

研究成果の概要（和文）：2つ以上の有意味の要素が結合し、単語を成す場合、各要素が単独形と違う発音になるケースが多い。（例：たま「玉」め-だま「目玉」）現代日本語に絞り込み、このような発音変化を調べるのが本研の目的だった。アンケート調査や録音調査に基づき、日本語の母語話者及び学習者を対象に、子音の変化もアクセントの変化も取り上げ、その規則性を検証した。特に漢語の濁音、山形方言の(鼻)濁音、単純名詞に基づいた苗字アクセント、に焦点をあてた。

研究成果の概要（英文）：When two or more meaningful elements combine to form a word, the pronunciation of each element often differs from its pronunciation in isolation (e.g., *tama* 'ball', *me-dama* 'eye-ball'). The goal of this research was to investigate such changes in pronunciation in modern Japanese. Using questionnaires and audio recordings, with native speakers and learners of Japanese as a foreign language as participants, meaningful elements in modern Japanese words are sometimes pronounced differently depending on the elements they combine with. Using questionnaires and audio recordings, the regularity of some changes in consonants and in accent was tested.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,210,000	363,000	1,573,000
2011年度	1,110,000	333,000	1,443,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,320,000	696,000	3,016,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学

キーワード：言語学

1. 研究開始当初の背景

(1) 現代日本語においては、広く知られている音韻交替（アクセントの交替も含めて）がいくつかある。理論的な捉え方はいろいろあるが、理論分析のために前もって規則性を検証する必要がある。

(2) アンケート調査で音韻交替の規則性を

調べる経験があった。

2. 研究の目的

(1) 現代日本語の音韻交替の歴史や現状が記述された先行研究に音づき、心理言語学調査や録音によってその音韻交替の本質を調べる。次の3つの課題を取り上げた。

① 数詞のアクセント（数詞が長くなると、

アクセント句の区切りが独特で、複合語のパターンとも他の種類の句のパターンとも一致しない。非母語話者にとって非常に難しく、マスターしにくいものだ。)

② 新濁と連濁の関係(漢語の二字熟語の中間の濁音は、中国語から入った時にもはやにあった「本濁」と日本語に入ったあとで現れた「新濁」を区別すべきだ。新濁と連濁の関係を明らかにするのは困難な仕事になる。)

③ 鼻濁音を保っている東北方言の連濁(山形方言を中心に)

3. 研究の方法

(1) 単一形態素名詞のアクセントとその名詞に基づいた苗字のアクセントが一致しないケースが多い。例えば、普通名詞の「星」が平板なのに、苗字の「星」は頭高。首都圏で育った日本語母語話者を対象に、このアクセント対立の規則性を明らかにするためにアンケート調査を行なった。

(2) 適切な例を探し出すために漢和辞典を利用した。新濁と連濁を同一現象として扱えばいいかという問題を調べた。

(3) 日本の大学で日本語を学習している留学生を対象に、録音調査を3回行なった。

(4) 山形県河北町で生まれ育った言語学者1人、現在山形大学に勤めている言語学者1人と協力し、録音調査と音素分析を行なった。

4. 研究成果

(1) 単一形態素名詞のアクセントとその名詞に基づいた苗字のアクセントとの相関関係はあまり規則的ではないという結果が出た。

(2) 新濁と連濁を同一現象として扱っても、別々の現象として扱っても、分析の矛盾を避けることはできないという結果が出た。

(3) 欧米の留学生もアジアの留学生も、日本語母語話者と同じように長い数詞をアクセント句に区切ることができないことは明らかになったが、これから教授法に貢献できる分析はこれから。

(4) 山形方言の母語話者の音素体系が共通語と大分違うことが痛感した。連濁の方言差を調べる前に、鼻濁音を保っている方言において何が共通語の連濁に当たるかを定める必要がある。しかし、これは簡単にできることではないということがあきらかになった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- ① Timothy J. Vance, Manami Hirayama, Mikio Giriko, Transition to a Two-Type Accent System in Tokyo Japanese? The Behavior of Surnames, Japanese/Korean Linguistics, 査読無、20巻、2012
- ② Timothy J. Vance, English Announcements on JR Commuter Trains: Is She a Native Speaker?, Phonological Studies, 査読無、15巻、2012、117-124
- ③ Timothy J. Vance, Rendaku in Sino-Japanese: Reduplication and Coordination, Japanese/Korean Linguistics, 査読無、19巻、2011、645-482

[学会発表] (計8件)

- ① Timothy J. Vance, Mark Irwin, Rendaku in Japanese Dialects that Retain Prenasalization, 21st Japanese/Korean Linguistics Conference, 2011年10月、ソウル大学、韓国
- ② Timothy J. Vance, The Spread of ⟨ou⟩ in Recent Romanization, 認知神経心理学研究会, 2011年9月、名古屋大学
- ③ Timothy J. Vance, English Announcements on JR Commuter Trains: Is She a Native Speaker?, Phonology Forum, 2011年8月、同志社大学
- ④ Timothy J. Vance, 日本語の漢字仮名交じり文と古アッカド語の楔形文字表記の共通点, 世界日本語教育研究大会, 2011年8月、天津外国語大学、忠僕
- ⑤ Timothy J. Vance, Lyman's Proposal for a Japanese Writing System, 言語科学会, 2011年6月、関西大学
- ⑥ Timothy J. Vance, Benjamin Smith Lyman as a Phonetician, 7th International Conference on the Practical Linguistics

of Japanese、2011年3月、サンフランシスコ州立大学、米国

⑦ Timothy J. Vance、ライマンの音声・音韻研究、第6回音韻論フェスタ、2011年2月、滋賀県大津市おごと温泉

⑧ Timothy J. Vance、Transition to a Two-Type Accent System in Tokyo Japanese? The Behavior of Surnames、20th Japanese/Korean Linguistics Conference、2010年10月、オックスフォード大学、英国

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.ninjal.ac.jp/rendaku/>

<https://sites.google.com/site/thesounds-of-japanese/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

バンス ティモシー (VANCE TIMOTHY)

大学共同利用機関法人人間文化研究機構

国立国語研究所・理論・構造研究系・教授

研究者番号：60581387

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者